

# 米國の婦人と子供

—フレーベル會二月常會講演筆記—

東京高等師範學校教授 佐々木 吉三郎

私は幼稚園のことを特別に深く研究して居るわけではありませんので、この會へ上りましてお話することは些か不適當であります。過日米國へ行つて參りましたので、その時の見聞感想でも話すやうにとの御依頼でありましたので、今日伺つたやうなわけであります。

それで演題はフレーベル會の雜誌の題號が「婦人と子ども」とありますので、それを其儘拜借して「米國の婦人と子ども」と致しました。しかし近い内に又本校の方でも渡米談を致すやうになつて居りますから一般のお話はその時にするやうにし、今日は幼稚園教育に關係のあるやうな點のみを拾ひ上げてお話してみやうと思ひます。

一體に亞米利加の子供——と申しましても主に農夫の子が多いのでありますが——は大ざつぱであります。物事がすべて粗大なのであります。

これが亞米利加の社會がその通りなのであります。丁寧なところがありません。綿密なところは、丁寧ないのであります。これは亞米利加といふ國がまだ若い國でありまして、創業の際でありますから細かなところは注意が及びかねるといつたわけなのであります。

尤も亞米利加の子供と言つても一概に大ざつぱとばかりは言へません。大都市の子供と田舎の子供とはその氣質が大いに違ふのであります。一體亞米利加の都會はどれも皆古い歴史を持つてゐる

のなぞはありません。一寸景氣のいゝところだと  
ドヤ／＼と人が四方から押し寄せるのでありま  
す、而して五十年と経たぬ内に大都會が出来上つ  
て了ふのであります。

亞米利加には、國か原か譯の分らぬ程だゞつ廣  
い、手のつかぬ、茫漠たる原と何十階といふ建物  
が押合ひへし合ひして立ち並んで居る都會とがあ  
るのであります。故に田舎に生れた子供は、極め  
て大ざつばでありますが、都會に生れた子供は歐  
羅巴の子供と同じく檻の中に閉ぢ籠められた動物  
みたいな境涯にあるものもあります。

が、しかし、大觀して亞米利加の子供は、よく  
言へば自由、わるく言へばほつたらかしにされて  
居るのであります。全くの放任主義なのでありま  
す。下等社會の子供は殊にほつたらかしになつて  
居ります。これは又こうなるわけであります。亞  
米利加の夫婦は主にも若夫婦であります。一つ亞  
米利加へ行つて金儲けをしやうと言つて集つて來

るのは血氣の若い者なのであります。これが少し  
お金を儲けると妻を迎へる——まあ亞米利加に集  
るのは若い元氣のいゝ、因循してゐない連中はか  
りであります。一くせも二くせもある人間の集ま  
りなのであります。我國の話にしたところがさう  
でありませう。青島が景氣がいゝ、樺太へ行くと  
金になると言つた調子で郷關を飛び出すのは皆若  
い連中でありまして、老夫婦は故郷に残して行く  
のであります。而してわるくすると所謂食詰者若  
しくは札附きの連中が眞先に斯ういふ新開の土地  
へは流れ込むわけであります。斯ういふ連中が移  
植した土地でゆつくり子供の面倒を見てゐさうな  
筈がないことは一寸考へて見れば直ぐ分るのであ  
ります。

殊に亞米利加のやうな「ナチュラリスティック自然の富源」に飛びつい  
た若夫婦が子供にかまつてゐないといふことは別  
に不思議でも何でもありません。早い話が子供は  
生きてさへすればいゝといふことになつて來るの

であります。若夫婦が野良へ仕事に出掛ける時に子供は後を追はうとします。夫婦は容赦なくこれを掴へて、飛行家が機臺へ乗つた時のやうに、バンドでもつて椅子へ括りつけて了ひます、而してそのまわりにはお菓子や牛乳や氷砂糖を並べます、これで若夫婦は外から鍵をかけ、二人相携へてさつさと出て行つて了ひます。後に一人取残された子供は口惜しさうにわめき立てますが誰も來ては呉れません。仕方がないので泣くことには見切をつけてお菓子でも食べて一人で退窟な思ひをしながら父母の歸りを待つてゐるといふことなるのであります。子供がもう少し大きければ若夫婦は外出の際、外から鍵を掛けたゞけで出掛けて行つて了ひます。これが下等社會の普通の有様であります、この位にしなければ却々短日月の間に成功することは六ヶ敷いのであります。まあ植民地氣分とでも言ふのでありませうか、止むを得ないところから子供をこんな風にも取扱ふのであ

りませう。こんなわけですから、亞米利加に於ては幼兒の死亡率が却々多いのであります。アメツカン・インディアンなどになりますと三人の赤ん坊は三才になるまでに一人死ぬ割合になつて居ります。これなどは率の甚しいものであります、一體に幼兒の死亡率は大であります、これは後に至つて幼稚園の必要といふことを説く時の伏線になるのであります。

私は亞米利加から歸ります時、天洋丸に乗つてまゐりましたが、或る日、この船の甲板で一人の西洋婦人が編物をして居りました。その傍には丸二才位の子供が夏蜜柑を持つて遊んで居ります。母親は編物に夢中です、子供は船が右左へ搖れるので、轉んだり、匍つたり、立つたりして、夏蜜柑を相手に一人で遊んで居ります。子供が轉ぶが、倒れやうが、海に落ち込む憂ひのないことが分つてゐる母親は嘗つて知らざるもの、如く編物に耽つて居りました。それから下の部屋へ行つて

みますと亞米利加歸りの日本人の若夫婦が子福者と見えて六人の子供を連れて居ります。皆亞米利加仕込の服装をして「ユーはつるいぞ」とか「ミ〜にくれろ」などといつて子供同志でさわいで居ります。するとこの日本人の父母は子供の一言一動に氣を配つて「そんなことを言ふものぢやない」とか「そつちの方へ行くんぢやありません」とか「ソラ〜言ふことをさかないものだから轉んだ」とか、口矢釜しく子供等に干渉して居りました。

私は子供を自由に遊ばして置く西洋の母親とおせつかいな口矢釜しい日本の父母を見て、彼我の教育法の差異がこんな點にまで現れて居るかと興味深く之を觀察したのであります。どつちにしたところが何も大して主義があつてやつてゐるわけではありますまいが天洋丸の乗客の子供の取扱方を見てこんな風なことが考へられたのであります。あちらのは自由にして置いていろんな目に會はしてやる、さうすれば自から悪いことを知つて

しなくなるといふ遣り口なのであります。日本では善かれ悪しかれ、子供が興味を感じて爲さうとする経験を皆それはいけないからと言つて奪つて了ひます。それですから、あちらの子供が十の経験を積む間に日本の子供は四つか五つ位の経験しか積むことが出来ません。或る時「教育家の理想」といふ西洋の名畫を見たことがあります。子供が崖の上で遊んで居て、女神がその上で手をひろげて居る畫であります。女神はチツとも子供に干渉しません。たゞ慈悲深いまなざしで子供の上を見守つて居ります、もし子供が崖の上から落ちさうな場合があれば女神は直ちに子供を助けて呉れることが出来るやうな姿勢をとつてゐます。この畫は全く西洋の教育理想をよく現して居ります。日本人のは崖の上に遊んでゐる子供の首ツ玉を抑へつけて身動きをさせまいとして居るのであります。

斯ういふ風に自由にしてゐて、いろ〜の経験

を積むやうに任まかされてゐますので、亞米利加の子供は非常に獨立心に富んで來ます、さうして何でも出来ることは自分でやるといふやうに自活の風が養はれて來ます。亞米利加の小學生などは十四五才のものが立派に自治によつて他人の世話にならずにやつて行きます。レーン・テクニカル・スクールだのハリソン・テクニカル・スクールだのといふ學校は晝三千夜三千の學生を收容しますが學生の間にビュービルズ・セルフ・ガバーメント(學生自治制)といふものが成立してゐますので些の混雜滯滞なく課業を受けることが出来るのであります。毎日鎮臺のやうに三千もの學生が黒くなつて出入するのでから日本の校長さんなら忽ち神經衰弱に罹つて了はうと言ふものです、しかし學生同志自から治めて行く亞米利加の學校の校長さんは學生の數がいくら多くてもチツとも困らないのであります。

亞米利加の學生は又學藝會といふやうなものを

組織して居りまして、中學校、高等女學校の一年生位の子供がどん／＼立派に會務を果して行くのであります。例へば學校の友達が死んだなどといふ場合には集つて追悼會を開いたり、醜金して花環を贈つたり、その會計報告をしたりするのであります。

つまり、亞米利加の子供は自由に澤山の經驗を積みせられるのであります、而して若し不都合のことがあればそれを再びしまいといふやうになつて漸次自律的になつて行くのであります。

日本の子供はすべて他律でやつて行きますから何時まで經つても自治に達することが出來ません、經驗で行はずに暗示で行つてゐるからいけないのであります。或るものを食べてお腹が痛くなつたといふ經驗を持つてゐればそのものが如何にうまさうに見えても自律的にこれを食べやうとはしません、しかし日本の子供のはこれを食べるとお腹が痛くなるさうだから食べまいといふので、

本當に食ふべからざる理由を知つてゐるのであり  
ません、それ故干渉されないと、ツイうまさうだ  
から一ち食べてみたくなつたりなぞするのであり  
まして、何時まで経つても他律であります。他律  
も或程度まで結構でありませう、しかし何うして  
も他律は自律まで突き通らなくては駄目でありま  
す、他律だけに止まつてゐるのでは困ります。

學校にゐる内は一々「立て！」「禮！」と號令を  
かけられて來たものが、卒業するともう號令のか  
けてがないために、直ぐ戸惑ひをするといふやう  
ではいけません。日本でも小學校の四五年位にな  
つたらば大いに自治の習慣をつけてやるやうにし  
なければなるまいかと思ひます。日本のは手がま  
わりすぎて反つていけない結果に到達するのであ  
ります。丁度華族の子などがあまりに大切にされ、  
世話をされすぎするために、やくざものになつて丁  
ふのと同じであります、眞の自由といふものは自  
律的人にして始めて持ち得るのであります。つ

まり自律的であるから自由であり、自由である故  
に獨立心が發達し、反省する力も生じて來るので  
あります。

亞米利加の子供は自由に經驗を積みまますので、  
その内にはいろんな目に會ひます。従つて常識が  
發達してゐます。向ふの小學校には別に修身科な  
ぞといふものはありませんが子供は皆正直であり  
ます。あちらでは、小包などの郵便物を出す時に  
ポストの中に這入らない大きなものは、箱の上へ  
乗せて置いて、平氣で歸つて來ます、中には指輪  
があるか、金時計があるかわかりませんが、いく  
ら澤山積み上げてあつても、大人も子供も誰一人  
それに手をつけるものではありません。

これはたとへ他人が見てゐずとも、巡查が見張  
つてゐなくとも、自分は決して悪いことはしない  
と堅い決心のあることを示してゐるので、米國の  
人は自分で自分を治めて行くのであります。他人  
が見てゐやうとゐまいと、そんなことは眼中にな

いのであります。

それから又米國の子供の感心なことは行儀作法のいゝ事であります。例へば教場で先生がお稽古をして居られる時に、他の先生から何か御用をたのまれて、使ひに來た生徒があるときとしますと、戸ドを開ける前に、コック／＼と戸を叩いて合圖をして

「お這入りなさい」とこちらの先生が答へると、靜かに戸を開けて、爪先でそうつと音のせぬ様に這入つて來て、先生の耳に口をよせて、他の生徒の邪魔にならぬやう、小聲で用向を傳へます、そして又音のせぬやうに靜かに歸つて行きます。決してボタンと戸を締めたりなぞいたしません。又私達のやうな參觀人が教場へ入つて行きますと先生が何も言はなくなつても、入口の側にある子供達はすぐ立ち上つて、椅子を持つて來てくれます。

算術や書取などをやつてゐる時に、机の側によつて見やうとしますと、日本の子供ならば、手で隠したりする處ですが、決してそんな事はなく、

書き終ると、參觀人の方へ帳面を向けて見せます。

本を讀んでゐる時だと、自分の本を參觀人に見せ、自分は隣の人の方へ寄つて、見せて貰つてゐます。こんなことは一々先生の命令を待たずにするので、如何にもよく氣が付いて、親切なことは丁度自宅うちにお客の見えた時に、火鉢を出し、お茶を出して、おもてなしをするのと同様であります。

それで私達は、あまりお稽古の邪魔をして悪いと思ふと、手真似か、小聲でもうそれには及びませんと斷ります。すると、それを止めて又靜かにお稽古を受けてゐます。こんな處は日本の子供とは大層違ふと思ひます。日本の子供は忠君愛國だの、一旦緩急あらば命を捨て、國に盡せのと、偶たまにしかないことにやかましい議論を聞かせられてゐますが、もとより結構なことには違ひありませんが、平生かうした人に接する心掛が一向出來てゐないのは困つたものです。日本の子供は學校といふところは一種特別の場所のやうに考へてゐ

て、家庭に居る時とは全然違つた気分を持してゐなければならぬやうに思つてゐます。尤も學校は家庭と較べると建物からして違つては居るのです。それで子供は自宅へ歸ると始めて眞人間になつたやうな氣がしやうと云ふのですから一寸困ります。

それから亞米利加の子供のいゝ點は彼等がフランクネスを持つてゐるといふことです、つまり無邪氣と言ひませうか、のんびりとして居る點がよいのであります。應揚に、素直に、のんびりと育つてゐる亞米利加の子供は大人に會つてもチツとも羞んだり、逃げ隠れたりなぞしません。往來で會つて道などを聞くとハッキリとよくわかるやうに教へてくれます。私達が小學校へ參觀に行つて校長さんに取次ぎを頼んだりすると喜んで取次いで呉れます、校長室に校長さんが居ないと歸つて來て「これから行つて探して來ますから、しばらく待つてゐて下さい」などと、却々行届いた應接

振りを見せます。

教室を參觀して居る時なども、先生が「ジョーン、暗誦をやつて御覽なさい」とか「アンナ、唱歌をおうたひなさい」とかいふとどん／＼立つて悪怯れずに命せられたまゝを行ひます。

亞米利加の子供は犬ころか何かが育つやうに、極めて自然に育てられて來たので、こんな風に晴れやかで、ハキ／＼してゐて、可愛いのであります。

私の學校でも、子供をなるべく自然に育てやうとして、あまりくどくどと小言をいはないやうにして居ります。それで斯ういふ亞米利加流の教育のいゝ方面を知らない人々は私共のやつてゐることに不審を懷かれると見えまして、「貴校の訓練の御方針は」などと聞かれることが時々あります。私は何時も自分の信ずる所を以てお答へして居るのであります、一體廊下を歩く時は口を利いてはならぬなどと固苦しいことを言つて束縛する必

要が何處にありませう。どうせ人間の集りです、朝廊下で「君、鉛筆を忘れて来たから、一寸貸して呉れ給へ」位のことを言つたからといつて何も校風に悪影響を及ぼすといふ程の大問題でもありませんまい、第一、こんなことを言つた日には、大人からして守れやしません。子供はほめられたいのが精一ぱいですから、ヂツと口を結んで、身體を固くして居りもしませう、小さな子供に物を言はせないやうにすることは朝飯前です、少しこわい顔をして、「黙つてゐろ」と言ひさへすれば、それで濟むではありませんか。それから又子供を放任して置くこともやさしいことであります、何を言はうと、爲やうと知らん顔をしてゐればいゝとなつたら教師位樂なものはないであります。小言を言ひ過ぎず、さればといつて全くの放埒でないといふ、この即かず離れずの境に教育の妙諦があるのであります。

市俄古や紐育へ行つて、大學の附屬小學校など

を參觀してみるに、頗る自由であります、この邊の小學校ではジョン・デュエイの原理に依つてゐるのであります、實に自由であります。一寸行つてみたのでは今何の時間だか分りません、砂場で遊んでゐる者がある、山へ登つてゐる者がある、腹匍ひになつて繪本を眺めてゐる者がある、腰掛けを作るのだといつて鋸を振廻して居る者がある、女の子が机の上にあがつてあぐらをかいてゐる、まア斯ういつた有様であります、これがホレスマン、スクールとか何とか言つて、コロンビヤ大學の附屬小學校として有名な模範校なのであります。日本では女の子が机の上のつかつて胡座をかいてゐるところなどが視學官に見附かれば校長は早速免職です、斯うした自由が幼稚園に於て行はれてゐるとでもいふのなら又おもしろいのもあります、何しろ小學校でこの有様なのですから、日本から行つた我々には大いに目新しかつたわけなのであります、それから授業の仕振

りなどを見ましても日本とは大いに趣きを異にして居ります、生徒は教へて貰ふと言ふよりも分らぬところを訊くと言つた方がよいのであります、

讀本を開いて先生が「何處か分らぬところはありませんか」ときゝます、すると生徒は分らぬところを夫々に質問します、それで授業はどん／＼進んで行つて了ふのであります。日本には教授細目などと言つて、途法もなく綿密な帳簿が出来てゐて、先生はこれによつて一々問答をしながら授業を進めて行くやうになつてゐます、しかしこれも考へてみればあまり效能のない話で、生徒が豫期してゐたやうな答をしない場合もあります、さういふ時は幾度もまわりくどい質問をして豫期した答を得て、それから後進んで行くといつたやうなことをしなければならなくなります、そこでかなりの労力と時間を費して作つた教授細目も、實際にはあまり役に立たないのであります。あちらには教授細目はありません、尤もコース・オヴ・ス

タデーといふ教授細目様のものはありますが、うすつべらな冊子で、教授の進み方を極めて大要に亘つて記載してあるに過ぎません。

亞米利加では中學校、女學校になりますとデイスカッション・システム(討論制)といふ方法によつて授業を進めてゆきます、すなはち生徒はその學ぶべき學科目を互ひに討議して研究して行くのであります、先生などは傍に立つてゐて、時々最後の判斷を與へるに止まるのであります。國語がやさしく、教科書が面白く出来てゐますので、彼等はよろこんで自修して行きます。中學校以上になりますと學科は選擇に任まかされてゐますので、生徒は各々その好む所に従つて自學自修し、興味を以て自分の選擇學科に深入りをして行くことが出来るのであります。(未完(文責在記者))